



Title	1940年代ネパール史年表（未定稿）
Author(s)	桑島, 昭
Citation	大阪外国語大学アジア学論叢. 1994, 4, p. 165-182
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99677
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《1940年代の南アジア》

1940年代ネパール史年表（未定稿）

桑 島 昭

1. 本年表は、1940年代ネパール史に関する英語文献を基礎として作成されたものである。
2. 『アジア現代史年表』の作成過程において、『年表』が「軍事史」を目指すものでないことが共通の了解とされた。イタリア・アフリカ戦線から東南アジアにいたる広い地域での戦闘に参加したグルカ（ゴルカ）兵の動きを詳細に追うことをしていない理由のひとつはこの点にある。しかし、ネパールの歴史家ウパレティ氏が指摘するように、グルカ兵を送り出したネパール農村がそのことによってどのような苦境に直面したかを年表のなかに生かすことは、今後の課題である。
3. おなじく、ウパレティ氏が分析した第二次世界大戦期のネパール国軍のインド北西辺境州コーハートにおける「暴動」は、戦争にたいするラーナー支配体制とネパールの民衆の異なる対応の仕方を考えさせる重要な事件であり、第一次世界大戦期のシンガポールにおけるインド兵の反乱を連想させるものがある。
4. 1951年2月の「デリー協定」の正確な日付けは、必ずしも明かではない。このことは、「1950年の革命」におけるネパール会議派の武装路線の役割およびこれを支持したネパールの民衆の広がりについて、十分に明かにされていないことと対応している。テライ地域およびカトマンズ渓谷地域における反体制運動とデリーにおける交渉過程との関係が、今後追求されなければならない。ここでは、「デリー協定」の日付けについては、ネパールの現代政治研究者リシケーシュ・シャーハー氏の見解に従った。
5. 1940年代ネパール史の中心的テーマは、1世紀にわたるラーナー一族支配の崩壊である。このために、年表は1951年末のモーハン・シャムシェール首相の

辞職まで触れている。

6. 参考文献の最後に掲げたインドの作家レーヌーによるヒンディー語のルポルタージュは、ネパール語あるいはネパール側の史料の可能性をも示唆するものであろう。

1940年代ネパール史年表（未定稿）

39.09.13	ネパール首相ジュッダ・シャムシェール、イギリス首相チェンバレン首相宛の書簡で、戦時における支援申し出る (Uprety 187).
39.12.04	ネパール国軍のインドへの貸与について、ネパールとインドの政府のあいだで合意・調印、海外には派兵せず (Uprety 194).
40.10.18	反ラーナー活動で20名逮捕、その後も逮捕続く。逮捕者のなかにネパール人民会議指導者、タンカ・プラサード・アーチャーリヤも (Shaha II-128).
41.01.01	ネパール国軍第二ライフル連隊、インドの任地コーハートで「暴動」 (Uprety 200-208).
41.02.18	コーハートの反乱の罪を問われた将校、カトマンズの練兵場で公開の鞭打ち、下士官メーグ・バハードゥル・ターバー、正午に絞首刑 (Uprety 208).
41.初め	第七グルカ連隊第二大隊、ペルシアとイラクへの出兵を通告される (Chant 107).
41.09.	第二グルカ連隊第二大隊を含むグルカ大隊、マラヤ北部防衛の任務与えられる (Chant 128).
41.12.13	ネパール駐在英公使バーサム、アジア・アフリカ戦線での援護のためにネパール国軍を派遣することにつき、ジュッダ・シャムシェールと討議、ネパール側、宗教的理由で海外派兵を拒否 (Uprety 208-210).
41.12.21	インド総督リンリスゴー、ネパールのバハードゥル・シャムシェール将軍に、ネパール国軍のビルマ派遣を要請 (Uprtey 211).
42.02.	ネパール、東部戦線の援護のために、工兵二個大隊を提供 (Uprtey 213).
44.03.21	インパールにカーリー・バハードゥル二個連隊。残る大隊は、サンシャク地域に。21日から戦闘。日本軍の砲弾を浴び、26日に撤退命令 (Uprtey 215-216).

44.09.	1857年のインド兵の反乱鎮圧に加わったネパール国軍マヒンドラ・ダル、チンドウイン河を渡り、中部ビルマに (Uprtey 219).
45.10.	グルカ旅団、インドネシアに送られる。12月9日付け大隊日誌、「当然ながら現状は困惑以上のもの、我が方針は天気のごとく変わりやすい」 (Farwell 236).
45.11.29	ネパール首相にパドマー・シャムシェール.
46.07.22	第五グルカ・ライフル連隊（辺境）第二大隊、東京に移動。イギリス、カナダ大使館、靖国神社を警備、皇居に13名の歩哨兵 (Farwell 234).
46.10.31	インドのバナーラスで、全インド・ネパール国民会議派成立。デービー・プラサード・サプトーカー、のちに総裁に選ばれる (Parmanand 14-15).
47.01.25	カルカッタの会議で、ネパール国民会議派の名称から「全インド」を外す。獄中のタンカ・プラサード・アーチャールヤを総裁に、B.P.コイララを臨時総裁に（1月25-26日） (Parmanand 15-16).
47.03.04	ネパール国民会議派の支援する労働者のストライキ、ビラートナガルで。B.P.コイララなど国民会議派指導者逮捕 (Parmanand 18).
47.04.13	各地で反ラーナー・デモ。5月16日、パドマー・シャムシェール首相、憲政改革を約束.
47.04.25	ネパール・アメリカ間で友好通商条約の調印、大使交換は翌年2月発表 (Muni 17).
47.08.08	ネパール・インド・イギリス間でグルカ兵の継承問題が話し合われていたが、デリーの軍首脳は、第二、第六、第七、第十の各二大隊をイギリス軍の一部とし、残りを独立後のインド軍に編入することを決定 (Farwell 250).

47.11.07	イギリス軍へのグルカ兵編入について新条約調印。ネパール・イギリス間の恒久平和友好条約は50年10月30日 (Muni 19).
48.01.26	パドマー・シャムシェール、ネパール政府法（新憲法）を公布、二院制議会と世襲的ラーナ首相を規定。しかし、パドマー・シャムシェール、2月には、「引退」してインドへ。
48.04.18	新首相モーハン・シャムシェール、ネパール国民会議派を非法化し、C級ラーナー、スバルナ・シャムシェールとマハービール・シャムシェールを追放 (Parmanand 28).
48.07.01	インドのネルー首相、ネパール首相に、インドの守備目的のためにネパール国軍の数大隊を派遣することを要請 (Uprety 285).
48.07.18	ネパール・インド間の覚え書きで、ネパール国軍の貸与にネパール政府合意。9月のハイグラーバードの「警察行動」では戦闘任務も (Uprety 285-297).
48.08.	スバルナ・シャムシェールとマハービール・シャムシェール、カルカッタでネパール民主会議を結成 (Parmanand 27).
49.09.15	ネパール共産党、カルカッタで結成される (Baral 34).
49.09.24	反ラーナ運動を組織したかどで、ネパール国民会議派指導者逮捕 (Kaisher Bahadur I - 1).
50.04.09	ネパール国民会議派とネパール民主会議、カルカッタの会議において合併し、ネパール会議派を結成、M.P.コイララ、総裁に (Parmanand 30).
50.07.31	ネパール・インド間で、平和友好条約調印 (Bhasin 32-34). 同日、ネパール・インド間の貿易通商条約も調印。
50.08.11	インド社会党のボーラ・チャテルジー、スバルナ・シャムシェールの従兄トリボム・マッラとともに、ラングーンでビルマ社会党議長バスエに合う (Chatterji 69-70).
50.08.18	ビルマ社会党副書記長チッマウン、ボーラ・チャテルジーに、ネパール会議派にたいするビルマ社会党の武器援助の意志を伝える (Chatterji 71).

50.09.26	ネパール会議派、インド領内の国境近くでの会議で、武装革命開始を決議（26-27日）（Parmanand 38）。
50.11.06	トリブバン国王、カトマンズのインド大使館に避難。モーハン・シャムシェール、ギャネンドラの即位を宣言。
50.11.11	トリブバン国王とその家族、インドの特別機でデリーへ。ネパール会議派活動家と支持者、ビールガーンジに発砲、翌日、同市を占領（Parmanand 48-49）。
50.11.19	ネパール国軍、ビールガーンジから20マイルの、ガオルで、約5千人の反ラーナー・デモに発砲、指導者シバ・プラサード・シンを含む十数名死亡（Parmanand 51）。
50.12.06	ネルー、インド議会で演説、「インドにとっての主要な境界は、ネパールの向こう側にあり、我々は、いかなる者がこの境界を越えてくるのも許さない。したがって、我々はネパールの独立を十分に認識しているが、ネパールの事態の悪化によって我々の安全を危険に曝すことはできない」とのべる（Bhasin 25）。
50.12.08	インド政府覚え書き、トリブバン国王を据えながら、憲法制定議会と中間政府の設置を提案（Karunakaran 194）。
50.12.23	ネパール会議派の解放軍（ムクティ・セナー）、ビラートナガルを占領。国軍の22名の兵士と県行政長官の息子殺される（Parmanand 53）。
51.01.08	モーハン・シャムシェール、インド政府覚え書きを受け入れ、成人選挙権にもとづく憲法制定議会と14名（内7名は人民の代表）からなる中間政府を提案（Parmanand 74-75）。
51.01.10	トリブバン国王、ネパール首相の宣言を承認し、ネパール会議派に武器を置くようにと訴える。
51.01.13	ネパール会議派、インドのゴーラクプルに集まる。16日に休戦を宣言。2月第一週の国王、ラーナーとの三者会談に参加。
51.02.07	ネパール三者会談、「デリー協定」に到達（Shaha II-340-341）。

51.02.15	トリブバン国王、カトマンズに帰る。
51.02.18	モーハン・シャムシェールを首相とし、ラーナー派5名、ネパール会議派5名からなる新政府発足。
51.03.	ラーナーの不満分子、勇者ゴルカ党を結成。
51.03.31	閣議、ネパール国王の承認を得て、ネパール中間政府法（中間憲法）を採択 (Parmanand 86)。
51.04.11	内相、M.P.コイララ、ゴルカ党書記長バーラト・シャムシェールの逮捕を命令。
51.04.12	ラーナーの警護兵、カトマンズ監獄を襲撃し、バーラト・シャムシェールを解放、コイララの自宅に向かう。カイセール・シャムシェール総参謀長、事態を収拾。バーラト・シャムシェール再逮捕 (Kaisher Bahadur I-45-46)。
51.06.10	トリブバン国王、内閣改造 (Parmanand 84)。
51.08.11	ネパール・ラジオ放送、ネパール政府の要請で、武装解除を拒否していたK.I. シンがインド軍によって逮捕されたことを報道 (Kaisher Bahadur I-55)。
51.11.06	カトマンズで警察が学生に発砲、死者を出す (Kaisher Bahadur I-59)。
51.11.13	モーハン・シャムシェール首相、辞任 (Kaisher Bahadur I-60)。
51.11.16	トリブバン国王、M.P.コイララを首相に任命、ラーナー支配体制の崩壊。

South Asia during the 1940s — History of Nepal during the 1940s —

Sho KUWAJIMA

This chronology was prepared on the basis of the results published in English and is still a tentative work.

It is our common understanding that the purpose of our project on the 'Chronology of Modern Asia during the 1940s' is not to describe its 'military history'. It is partly due to this reason that in this work I did not trace in detail the military activities of the Gurkhas in the various parts of the world from Italy and North Africa to South East Asia. However, Prem R. Upadhyay, a Nepali historian, described in his recent work how the hill areas of Nepal which sent no less than 200,000 sons to the War faced the decline of production leading to nation-wide shortages and inflation.^⑩

Also, the 'Mutiny' of the Nepali Contingent in Kohat, North West Frontier Province of India which was analyzed by Upadhyay provides us valuable historical materials for reconsidering how the people and the Rana rulers responded to the War in Nepal.^⑪ This Mutiny leads us to the re-examination of the historical meaning of the Indian Mutiny in Singapore during the First World War.

The correct date of the 'Delhi Settlement' in 1951 is not clear. Here the author used the date written in the chronology which was prepared in Rishikesh Shaha's recent book, *Modern Nepal*. It is still an important theme to be examined to what extent the armed struggle led by the Nepali Congress and the Nepali people who supported this contributed to the

negotiations in Delhi and the 'Revolution of 1950'.

The central issue in the history of Nepal during the 1940s is how the one century long Rana regime collapsed. In this context the chronology of the 1940s comes up to the end of 1951 when the Ranacracy was finally abolished.

The reportage of the armed struggle in the Terai area of Nepal written in Hindi by Renu, an Indian writer, seems to suggest the probability of the existence of Nepali sources which have not been enough explored so far.

- (1) Prem R. Uperty, *Nepal : A Small Nation in the Voltex of International Conflicts 1900-1950*, Kathmandu, 1984, pp. 239-242.
- (2) *Ibid.*, pp. 200-207.

History of Nepal during the 1940s

39.09.13	Juddha Shamsher, Nepali Prime Minister, wrote to Chamberlain, offering his help in the War (Uprety 187).
39.12.04	Final agreement between Nepal and the Government of India to the loan of the Nepali contingent to India was signed in Calcutta. It was not to be sent overseas (Uprety 194).
40.10.18	Twenty persons were arrested and further arrests continued for some time. Tanka Prasad Acharya, a leader of the Nepali Praja Parishad (Nepal People's Conference) among the detainees (Shaha II-128).
41.01.01	Men of the Second Rifles of the Nepali contingent 'rioted' at Kohat (Uprety 200-208).
41.02.18	The guilty officers in the Kohat Mutiny were beaten publicly in the parade ground of Tundikhel, Kathmandu and <i>Subedar</i> Megh Bahadur Thapa was hanged at twelve noon (Uprety 208).
41.first months	The 2/7 Gurkhas left, after being warned for service in Persia and Iraq (Chant 107).
41.09	The Gurkhas battalions including the 2/2 Gurkha Rifles were allocated to the plan designed to protect the north of Malaya (Chant 128).
41.12.13	G.L. Betham, British Minister to Nepal, and Juddha Shamsher discussed the matter of sending the Nepali contingent for a supportive role in the Afro-Asian theater of the war. Nepal rejected the idea of despatching her contingent overseas on religious grounds (Uprety 208-210).

41.12.21	Linlithgow, Viceroy of India, talked with the Nepali General Bahadur Shamsher and sought the permission of sending the Nepali contingent to Burma (Uprety 211).
42.02	Nepal offered two auxiliary Labour Battalions to fulfill secondary role in the Eastern Front (Uprety 213).
44.03.21	During March 1944 there were two Kali Bahadur regiments in Imphal, while the remaining of the battalion was stationed in Sangshak area. Some sporadic fighting on the 21st, and hand-to-hand combat on the 23rd. Water supply of the Nepali was cut on the 24th and the Nepali position was shelled by the Japanese. Situation was crucial on the 26th and the British Divisional Commander gave orders to retreat (Uprety 215-216).
44.09.	Mahinder Dal, Nepali battalion which fought for the British in the Lucknow seize of 1857, was one of the first units to cross Chindwin and to enter into Central Burma (Uprety 219).
45.10.	A brigade of the Gurkhas was sent to Indonesia. The war diary of the 3/5th for 9th December reads: 'Naturally enough the present situation is more than a little puzzling to all of us. Our policy changes as rapidly as the weather' (Farwell 236).
45.11.29	Accession of the Prime Minister Padma Shamsher.
46.07.22	Second Battalion, 5th Royal Gurkha Rifle (Frontier Force) moved to Tokyo, guarded the British and Canadian Embassies and the Yasukuni Shrine, and provided thirteen sentries for the Imperial Palace (Farwell 234).

46.10.31	Akhil-Bharatiya Nepali Rashtriya Congress (All-India Nepali National Congress) was set up in Varanasi. Devi Prasad Saptoka was later elected as its chairman (Parmanand 14-15).
47.01.25	'All-India' was dropped from the name of the Nepali National Congress at its conference in Calcutta. Tanka Prasad Acharya in prison was elected as its President and B. P. Koirala as its Acting President (Jan. 25-26) (Parmanand 15-16).
47.03.04	Labour strikes in Biratnagar, supported by the Nepali National Congress. B.P. Koirala and other Congress leaders were arrested (Parmanand 18).
47.04.13	Massive anti-Rana demonstrations at many places, leading to Padma Shamsher, Prime Minister's statement to promise constitutional reforms on May 16th.
47.04.25	Agreement of Friendship and Commerce between the U.S. and Nepal was signed. Exchange of ambassadors was formally announced in February 1948 (Muni 17).
47.08.08	The army headquarters in Delhi reached a decision that the first two battalions of the 2nd, 6th, 7th and 10th regiments were to become part of the British Army and all others were to pass to the army of the independent India (Farwell 250).
47.11.07	A new treaty for the continuation of the Gurkhas recruited to the British Army was signed. Treaty of Perpetual Peace and Friendship between Nepal and Britain was signed in Kathmandu on Oct.30,1950 (Muni 19).

48.01.26	Padma Shamsher announced the Government of Nepal Act 2004 v. s., known as a new constitution which sought to set up bicameral parliament with the hereditary Rana Prime Minister.
48.04.18	Mohan Shamsher, the new Prime Minister (Padma retired to India in February) declared the Nepali National Congress illegal and banished Suvarna Shamsher and Mahabir Shamsher, 'C' Class Ranas (Parmanand 28).
48.07.01	Jawaharlal Nehru asked the Nepali Prime Minister to agree in principle of sending some battalions of the Nepali contingent for garrison duty in India (Uprety 285).
48.07.18	A Memorandum of Agreement was signed between Nepal and India in which the Government of Nepal agreed in principle to the loan of a contingent of Nepali troops consisting of ten battalions. Some of its units assumed combat roles in the Hyderabad Action in September (Uprety 285-297).
48.08.	Nepal Prajatantra Congress (Nepal Democratic Congress) was formed in Calcutta under the leadership of 'C' class Ranas — Suvarna Shamsher and Mahabir Shamsher (Parmanand 27).
49.09.15	The Nepal Communist Party was formed in Calcutta (Baral 34).
49.09.24	The arrest of the Nepali National Congress leaders who had been organising anti-Rana movement (Kaisher Bahadur I -1).
50.04.09	The Nepali National Congress and the Nepal Democratic Congress merged together to form the Nepali Congress at the meeting in Calcutta. M.P. Koirala was elected Chairman (Parmanand 30).

50.07.31	Treaty of Peace and Friendship between Nepal and India was signed in Kathmandu (Bhasin 32-34). Treaty of Trade and Commerce between Nepal and India was also signed.
50.08.11	Bhola Chatterji, an Indian Socialist, accompanied by Thirbhom Malla, a nephew of Suvarna Shamsher, met U Ba Swe, Chairman of the Burma Socialist Party in Rangoon (Chatterji 69-70).
50.08.18	Chit Maung, Deputy General Secretary of the Burma Socialist Party, told Chatterji that his Party had decided to help the Nepali Congress and that the request for arms would be met (Chatterji 71).
50.09.26	The Nepali Congress resolved to launch armed revolution at a conference of its representatives in Bairgania in India (Sept. 26-27) (Parmanand 38).
50.11.06	King Tribhuvan took refuge in the Indian Embassy, Kathmandu.
50.11.07	Prince Gyanendra was declared King by Mohan Shamsher.
50.11.11	King Tribhuvan and his family were flown to India in a special Indian plane.
	Nepali Congress volunteers and supporters opened fire at Birganj and captured next day (Parmanand 48-49).
50.11.19	The Nepali Army fired on the anti-Rana procession of about 5,000 persons at Gaur, 25 miles from Birganj, and a dozen persons including their leader Shiva Prasad Singh were killed (Parmanand 51).
50.12.06	Jawaharlal Nehru spoke in Indian Parliament , "The principal barrier to India lies on the other side of Nepal and we are not going to tolerate any person coming over that barrier. Therefore, much as we appreciate the independence of Nepal, we cannot risk our own security by anything going wrong in Nepal" (Bhasin 25).

50.12.08	In a memorandum submitted to the Government of Nepal, the Indian Government made its proposal of a Constituent Assembly and an Interim Government in Nepal, while suggesting that Tribhuvan should continue as King (Karunakaran 194).
50.12.23	The <i>Mukti Sena</i> (Liberation Army) of the Nepali Congress captured Biratnagar. 22 soldiers of the state army and a son of the <i>Bara Hakim</i> (Head of the District) were killed (Parmanand 53).
51.01.08	Mohan Shamsher agreed to accept the Memorandum of December 8, 1950, and proclaimed a new political order, suggesting the formation of a Constituent Assembly elected on adult suffrage and an Interim Government consisting of 14 members, seven of whom were to be the representatives of the people (Parmanand 74-75).
51.01.10	King Tribhuvan approved the Prime Minister's proclamation and appealed the Nepali Congress to lay down its arms.
51.01.13	The Nepali Congress met at Gorakhpur. It declared ceasefire on the 16th, and participated in the tri-partite talks with the King and the Ranas in the first week of February.
51.02.07	The tripartite talks among the Nepali leaders reached the 'Delhi Settlement' (Shaha II-340-341).
51.02.15	King Tribhuvan returned to Kathmandu.
51.02.18	The Ministry composed of 5 Ranas and 5 from the Nepali Congress was formed, headed by Mohan Shamsher.
51.03.	The dissatisfied Rana organised the Vir Gorkha Dal.

51.03.31	The Council of Ministers adopted, with the approval of the King, the Interim Government of Nepal Act, 2007 (A.D. 1951). generally known as the Interim Constitution (Parmanand 86).
51.04.11	M.P. Koirala, Home Minister, ordered the arrest of Bharat Shamsher, General Secretary of the Gorkha Dal.
51.04.12	The personal guards of the Ranas raided the Kathmandu prison, and, after releasing Bharat Shamsher, proceeded to attack Koirala's residence. General Kaisher Shamsher, Commander-in-Chief, controlled the situation and re-arrested Bharat Shamsher (Kaisher Bahadur I – 45-46).
51.06.10	The King reshuffled the Coalition Government (Parmanand 84).
51.08.11	Nepal Radio broadcast the news that Dr. K. I. Singh was captured by the Indian Army at the request of the Government of Nepal (Kaisher Bahadur I – 55).
51.11.06	The police fired on a procession of students in Kathmandu (Kaisher Bahadur I – 59).
51.11.13	Prime Minister Mohan Shamsher resigned (Kaisher Bahadur I – 60).
51.11.16	King Tribhuvan appointed M.P. Koirala as the Prime Minister of Nepal. End of the Ranacracy.

References:

1. Lok Raj BARAL, *Oppositional Politics in Nepal*, New Delhi, 1977.
2. A.S. BHASIN(ed.), *Documents on Nepal's Relations with India and China 1949-66*, Bombay, 1970.
3. Christopher CHANT, *Gurkha: The Illustrated History of the Elite Fighting Force*, Dorset, 1985.
4. Bhola CHATTERJI, *A Study of Recent Nepalese Politics*, Calcutta, 1967.
5. Byron FARWELL, *The Gurkhas - A history of the finest infantry men in the world*, Penguin Books, 1985.
6. KAISHER BAHADUR K. C., *Nepal - After the Revolution of 1950*, Vol.1, Kathmandu, 1976.
7. K. P. KARUNAKARAN, *India in World Affairs 1950-53 - A Review of India's Foreign Relations*, Calcutta, 1958.
8. S. D. MUNI, *Foreign Policy of Nepal*, Delhi, 1973.
9. PARMANAND, *The Nepal Congress since its Inception: A Critical Assessment*, Delhi, 1982.
10. Rishikesh SHAHA, *Modern Nepal - A Political History 1769-1955*, Vol. 2, 1885-1955, New Delhi, 1990.
11. Prem R. UPRETY, *Nepal: A Small Nation in the Voltex of International Conflicts 1900-1950*, Kathmandu, 1984.

The following books were also consulted:

1. Nishizawa Kenichiro, *Nepal no Rekishi - tai Indo Kankei o chushin ni* (in Japanese, A History of Nepal - with special reference to her Relations with India -), Tokyo, 1985.
2. Kusum Shreshtha, *Monarchy in Nepal - Tribhuvan Era - Imprisonment to Glory*, Bombay, 1984.

- 3 . Kanchanmoy Mojumdar, *Nepal and the Indian Nationalist Movement*, Calcutta, 1975.
- 4 . Durga Bahadur Shrestha and Chandra Bir Kansakar, *The History of Modern Nepal, Book 2*, Kathmandu, 1974.
- 5 . S. K. Chaturvedi, *Bharat-Nepal Sambandh* (in Hindi, Indo-Nepalese Relations), Delhi, 1983.
- 6 . Fanishvarnath Renu, *Nepali Kranti-katha* (in Hindi, The Story of Nepali Revolution), New Delhi, 1977.